

～在ハンガリー日本大使館～

2010年9月

— Monthly Review —

全 21 頁

政治・経済月報(8月号)

政治・内政

- ショーヨム大統領の任期満了を受け、シュミット新大統領が就任
- フィデスのクヴェール議員が新国会議長に就任

政治・外交

- 20日の建国記念日前後には、オルバーン首相を始め政府要人が近隣諸国を訪問し、ハンガリー民族の団結を訴えた。その20日には、二重国籍法が発効
- アフガニスタンでハンガリー人兵士が死傷

経済・社会

- マルチ国家経済相は、2011年の財政赤字をGDP比3%未満にすることに固執しないと表明
- 国家経済省は、2010年のGDP予測を-0.2%から+0.6%へ上方修正

○インフレ率	(y/y)	(2010年7月)	4.0% (食品：2.8% エネルギー：9.4%)
		(2009年平均)	4.2% (食品：4.4% エネルギー：8.2%)
○賃金上昇率	(y/y)	(2010年6月)	0.5% (民間：2.9% 公的：-4.5%)
		(2009年平均)	0.5% (民間：4.3% 公的：-7.9%)
○鉱工業生産	(y/y)	(2010年6月)	+15.2%
		(2009年平均)	-17.7%
○失業率(15-74歳)		(2010年5月～ 2010年7月平均)	11.0%
○政策金利		(2010年8月末)	5.25% (5～8月は変更なし)
○10年国債利回り			7.07%
○為替相場	(月中平均)	・1ユーロ	= 281.26 フォリント
		・1ドル	= 217.76 フォリント
		・1フォリント	= 0.39 円

《今月のトピックス》

■ I. 内 政

1. ショーヨム大統領の任期満了、シュミット新大統領の就任
2. シュミット新大統領就任式典
3. 国家メディア報道局（新設）：初代局長にサライ氏就任
4. オルバーン首相、シュミット新大統領を閣議に招待
5. シュコロー・カジノ都市計画をめぐるスキャンダル
6. 地方選挙に向けた動向：エステルゴム市長選は野党共闘
7. ピンテール内相のボルショド県洪水被災地視察
8. 「国民結束」の建国記念日
9. ブダペスト市議会閉会：デムスキー市政の終幕
10. ナウラチ行政司法相、各県の行政支局長を任命

■ II. 外 交

1. ハンガリー・チェコ外相会談
2. オルバーン首相のセルビア・ヴォイヴォディナ地方訪問
3. 国境外ハンガリー人に対する二重国籍付与法の発効
4. 2011年EU議長国就任に関する動き
5. ショーヨム前大統領のスロバキア訪問
6. アフガニスタンにおけるハンガリー兵士の死亡
7. ハンガリー・モルドバ外相会談
8. シェムイエーン副首相の中国訪問
9. ハンガリー大使会議の開催

■ III. 経 済

1. ハンガリーの就労率はEU内で下から2番目
2. マトルチ国家経済相、2011年の財政赤字目標に固執しない
3. 6月の鉱工業生産は前年同月比+12.6%（調整後）（速報）
4. 6月の貿易黒字は567百万ユーロ（速報）
5. 国家経済省、2010年のGDP予測を0.6%成長に上方修正
6. 2011年には数十億ユーロの外貨建国債を発行
7. 7月の中央銀行金融委員会会合の内容が明らかに
8. 7月の消費者物価は前年より4%上昇

9. ローン返済条件変更の効果は限定的
10. 予想以上のGDP成長は産業部門の輸出増が原因
11. 国家開発省次官：ガス価格の合意は9月中旬
12. 政府はナブッコ・サウスストリーム両方にコミット
13. 一般政府純借入れ、7月までの1年間でGDP比4.8%（速報）
14. ハンガリーはいずれIMFが必要になる
15. 財政委員会、2010年の財政赤字をGDP比4%と予想
16. 6月の総賃金は前年比0.5%の上昇
17. 悪天候により果物・野菜の収穫が3分の1減少
18. 中央銀行、4ヶ月連続で基準金利を5.25%に据え置き
19. 中央銀行、インフレ報告書で財政赤字をGDP比4.3%と予測
20. GKI社、8月の消費者・企業信頼感指数は改善
21. 国家経済省、IMFとの新たな取極めは不要との見解
22. 国家開発相、政府はハンガリー大企業のハンガリー資本比率維持に尽力

■ IV. その他

- ・ 8月の選挙・支持政党に関する世論調査
- ・ 8月の為替・金利動向
- ・ 主な出来事

※本資料は当該月間の
ハンガリー紙等の報道
をベースにとりまとめた
ものです。

I. 内 政

1. ショーヨム大統領の任期満了、シュミット新大統領の就任 (5日)

(1) 5日、ショーヨム大統領(当時)の5年の任期満了を受け、シュミット次期大統領への引継ぎが大統領府(シャーンドル宮殿)にて行われた。ショーヨム大統領は、「あなたが自分自身の良心を覚醒させ、これを強化する必要のあるとき、私は見えない大統領としていつでもあなたの隣にいたろう。大統領というものには皆、兎角自分で新しいチャプターを書きたいと思ってしまうものだが、絶対に忘れてはならないことがある。それは、皆で一冊の書物を執筆しているということだ。」と次期大統領に叱咤激励の言葉を送ったが、翌6日に予定されているシュミット新大統領就任式典は出席しない意向を表明した。

(2) シュミット次期大統領は「立派な功績を残された前任者たちが通った道を辿れるように尽力する。環境保護や国民連帯の促進に努力を惜しまなかったショーヨム大統領に対しては、特別の敬意を払いたい。」として、退任する大統領を労った。

シュミット次期大統領は、同日付で国会議員及び議長職を退き、長年にわたり務めてきたハンガリー五輪委員会委員長ポストも辞任した。

2. シュミット新大統領就任式典 (6日)

(1) 式典の概要

6日11時、大統領府の中庭にてシュミット新大統領の就任式典が開催された。当初式典は大統領府前のセント・ジェルジ広場で挙行される予定であったが、同日朝の雷雨の影響で急遽場所が変更となった。式典にはオルバーン首相以下政府閣僚、クヴェール国会議長、パツォライ憲法裁判所長官、マードル元大統領、ボロシュ元首相ら約200名の賓客が列席した。ショーヨム大統領は事前の予告のとおり欠席した。野党第一党の社会党と第三党「新しい政治の形」(LMP)は、同式典の招待状が開催前日の5日に送付されてきたことへの不満を顕にし、「望まれざる客と見なされている以上、我々は出席するつもりはない」(シッフエルLMP国会議員団長)として参加を見送った。

式典は、国歌斉唱に始まり、民俗舞踊、バルトークの楽曲演奏、ヴルシュマルティの詩朗読、コダーイの楽曲独唱と続いて、シュミット新大統領による就任演説をもって全プログラムを終了した。

(2) シュミット新大統領の演説 (要約)

春に実施された総選挙において、民意は憲法策定をも可能とする多数の議席を（与党に対して）与えた。憲法制定過程においては、私自身積極的な役割を担いたいと考えており、障害物ではなくバランスーになればと思う。新憲法前文では、ハンガリー国家の起源や過去の栄光、キリスト教や聖王冠について言及されるべきである。また、憲法にスポーツの重要性についても記述されるようであれば好ましい。

なお、母語（であるハンガリー語）を保護し、これを豊かにすること、あるいはスポーツの振興に携わることは自らが担うべき重要課題と考えている。教育文化事業の発展のため、大学や地方の学校を訪問したい。いずれにせよ、1500万人がハンガリー人として一体感と誇りを持てるならばそれが何よりであり、1人でも多くの国境外ハンガリー人が二重国籍を取得できるよう努めたい。ハンガリー人であることが、我々皆にとって気持ちの昂ぶりを覚えることであって欲しい。

（3）5日付「ネーブサバッチャーグ」紙は、大統領の交代に伴い、大統領府の組織系統が3部門（司法行政、渉外、社会広報）に分割される見込みであると報じた。同時に、大統領府に勤務する52名の職員のうち、6名を除く全員が解雇される見通しであることを明らかにした。

3. **国家メディア報道局（新設）：初代局長にサライ氏就任**（10日－11日）

夏の国会最終日（7月22日）に可決されたメディア関連法（当館月報7月号12頁参照）が、シュミット大統領によって10日、承認されたことを受け、オルバーン首相は新設される国家メディア報道局（NMHH）初代局長にサライ・アンナマーリア元フィデス国会議員を任命した。任期は9年で、再任は無制限。

NMHHは、従前まで全国ラジオ・テレビ協会（ORTT）と国家報道局（NH）が担ってきた業務を一元化し、発展的に継承する独立機関として、11日付で新設された。サライ局長は就任会見で、「市場の影響によってぶれない、信頼に足る助言をメディアに対して行う。人間が考えの中心にあるようなメディア管理に取り組む。」と意気込みを語った。

4. **オルバーン首相、シュミット新大統領を閣議に招待**（11日）

11日、シュミット新大統領は、オルバーン首相の招待を受けて、閣議に出席した。大統領は、政府、国会、裁判所と協調関係を築き上げる目的の一環として、今後は半年に1度の頻度で、閣議に参加する意向を表明した。

また、大統領は、前日10日付で夏の国会最終日に可決された全13法案を「憲法上問題なし」と判断し、署名したことを明らかにした。

5. シュコロー・カジノ都市計画をめぐるスキャンダル (12日－31日)

(1) 12日、ジュルチャーニ元首相及びバイナイ前首相は、ブダイ首相付コミッショナーが右両氏の名誉を著しく傷つけ、国民に大きく誤解を与える発言を行ったとして、同コミッショナーを相手取る訴訟を提起した。ブダイ・コミッショナーは、前社会党政権時代に持ち上がったシュコロー周辺のカジノ都市計画に関し、国家に莫大な損失をもたらすような国有地民間払下げが行われたとする一連の疑惑の捜査及び究明に携わるグループを率いている。

これに先立つ7月28日、ブダイ・コミッショナーは記者会見で、右首相経験者2名がカジノ計画スキャンダルの究明を急ぐ検察当局に参考人として聴取された際、偽証を働いたとする見解を明らかにした。同コミッショナーは、イスラエル系ハンガリー人実業家のヨアヴ・ブルム氏からバイナイ前首相に宛てた書簡、並びにヴェレシュ元財務大臣からブルム氏宛の書簡を、偽証がなされた事実を裏付ける決定的な証拠として既に入手している旨述べ、書簡で確認できる内容と異なる証言を行った両首相経験者の責任を、政府として追及していく姿勢を鮮明にした。今回の両首相経験者による訴訟は、以上のようなブダイ・コミッショナーの発言内容が虚偽であるだけでなく、名誉毀損に当たるとして提起されたものである。

フィデス＝KDNPは、総選挙キャンペーン中より、前社会党政権の失政「13項目の清算」を公約に掲げており、不当と思しき国有地の民間払下げ疑惑のあるシュコロー・カジノ計画の再点検も公約の1つに含まれていた。

野党LMPやヨッビクは、国会カジノ問題究明委員会立上げを提案している。

(2) 31日、中央検察局は、民間払下げ後に巨大カジノが建設される予定となっていたシュコロー周辺の国有地の資産価値を不当に低く見積もった疑いで、ハンガリー国家資産運用会社(MNV)の元幹部2名の身柄を拘束し、関係各所の家宅捜索を実施した。逮捕されたのは、タートライMNV元代表(元財務政務次官)とチャーシ元法務顧問の2名で、検察の調べに対して、前者は容疑を全面否定、後者は黙秘を貫いている。

6. 地方選挙に向けた動向：エステルゴム市長選は野党共闘 (17日)

17日付「ネープサヴァ」紙(全国紙、左派寄り)は、エステルゴム市長選

Republic of Hungary

挙で、ヨッビクが独自候補擁立の見送りを宣言したのを皮切りに、LMP、社会党、ハンガリー民主フォーラム、「エステルゴムのための市民協会」もそれぞれ立候補を見送り、無所属のテーテーニ・エーヴァ候補の支援に回る見通しであると報じた。11年前から市長を務めるフィデス現職のメツジェシ候補の再任を阻止することが狙い。

7. **ピンテール内相のボルショド県洪水被災地視察**（17日）

17日、ピンテール内相はボルショド＝アバウーイ＝ゼンプレーン県（以下、「ボルショド県」）を視察した。ボルショド県は、今春ハンガリー各地を襲った洪水被害の最も深刻だった東部地方に位置し、特にミシュコルツ近郊フェルシェージュルツァでは2千棟以上が浸水するなど、被害総額は2千億フォリントに上ったと言われる（当館月報7月号6頁参照）。

ピンテール内相は、政府が復興支援予算として計上している30億フォリントのうち、9.2億フォリントを災害復興当局へ送金することを承認、最終的に10月31日までには洪水被害による倒壊家屋全てを復旧する考えを明らかにしている。

8. **「国民結束」の建国記念日**（20日）

ハンガリー建国記念日の20日、各地で記念式典が開催された。本年は、5月から6月にかけてハンガリー北東部を中心に猛威を振るった洪水被害からの復興と支援を視野に入れた「国民結束」がスローガンとして掲げられ、記念日夜の恒例となっている花火イベントが規模を縮小して実施された。また、レッドブル・エアーレース・ブダペスト大会も当局から飛行許可が下りなかったために中止となるなど、例年と比べて簡素な1日となった。

(1) シュミット大統領のスピーチ（要旨）

国民の宿命は、その適応力に左右される。成功する国民というものは、固有名性とルーツを保ちながらも、同時に他者に対して開かれた心を持っている。ハンガリー、そしてハンガリー人は、祖国への忠義を一生涯心に持つことができるならば、再び強者となれるだろう。本日、施行された二重国籍法は、国民の自尊心を高めることに資するに違いない。

(2) ガールダ団長の身柄拘束

マルギット島で開催されたヨッビクの集会で、マジャル・ネムゼティ・ガールダ（以下、「ガールダ」）のイナアンチ新団長（16日就任）がブダペスト警

Republic of Hungary

視庁に身柄を拘束された。サボー・ヨッビク幹事長によると、イナーチ団長は拘束時に「マジダル・ネムゼティ・ガールダ」（ハンガリー民族防衛団）とプリントされたTシャツを着用していた。

ガールダは、2009年に最高裁判所によって解散命令が下された旧マジダル・ガールダの流れを汲む極右自警団組織で、極右政党ヨッビクと密接な関係を持つ。前身の旧ガールダが非合法化されて以降、公衆の場で同団体の制服を身に着けることも違法行為と見なされている。

9. **ブダペスト市議会閉会：デムスキー市政の終幕**（26日）

26日、地方選挙前最後のブダペスト市議会が開催された。10月3日の次期ブダペスト市長選挙への不出馬を早くから表明しているデムスキー市長は、「政治にハッピーエンドはない。幸福と喜びに満ち溢れた始まりがあるだけである」と自身が務め上げた5期20年を評価し、次期市長への申し送り事項として、(ア) 都市計画の連続性の維持、(イ) 地下鉄4番線工事の続行、(ウ) 文化的多様性の維持、(エ) 貧困層に対する支援の4点を挙げた。

10. **ナヴラチチ行政司法相、各県の行政支局長を任命**（30日）

30日、ナヴラチチ行政司法相は、20名のブダペスト市及び各県の行政支局長を任命した（うち女性14名）。県行政支局長は、前政権が全国7か所に設置した国家地域行政局に代わるもので、9月1日付で正式立上げとなった。

II. 外 交

1. **ハンガリー・チェコ外相会談**（5日）

5日、マルトニ外相は、ハンガリー訪問中のシュワルツェンベルグ・チェコ外相と会談した。会談では、両国間に懸案事項は存在せず、東方政策や西バルカン政策、エネルギー安全保障といった種々の問題において両国の利益が一致していることが確認され、中欧諸国間の協力の重要性が強調された。また、シュワルツェンベルグ外相は、2011年前半のハンガリーEU議長国への支援を改めて表明した。

2. **オルバーン首相のセルビア・ヴォイヴォディナ地方訪問** (14日)

20日の建国記念日（ハンガリー初代国王である聖イシュトヴァーンの日）を前に、14日、オルバーン首相は、セルビア・ヴォイヴォディナ地方を訪問し、ヴォイヴォディナ・ハンガリー人同盟のパーストル会長と会談した他、同地方パリッチで開催された聖イシュトヴァーンの日記念式典に出席した。パーストル会長との会談後、オルバーン首相は、ヴォイヴォディナ地方のハンガリー少数民族自治の機関であるハンガリー人評議会に対して、奨学金や寮の整備、スクールバス運行等のため、3年にわたってハンガリー政府が支援を行うことを発表した。

3. **国境外ハンガリー人に対する二重国籍付与法の発効** (20日－23日)

(1) 20日、国境外ハンガリー人への二重国籍付与に関する改正国籍法（いわゆる二重国籍法）が発効した。実際に適用され、国籍取得申請の受付が開始されるのは2011年1月1日からである。政府は、初年に2万5千～4万人の申請者を見込んでいる。

二重国籍法により、ハンガリー国内に居住地を有さない者であっても、ハンガリー人の子孫であればハンガリー国籍を申請できるようになる。また、申請から国籍取得までの手続期間が、現行の12ヶ月から3ヶ月へと短縮される。

同法発効にあたりシエムイェーン副首相は、二重国籍法はハンガリー民族を保護し、ハンガリー民族の分裂を防ぎ、ハンガリー民族としてのアイデンティティを強化するものであるとコメントした。

(2) 二重国籍法発効に際し、ハンガリー北東部モノク市のセペッシ市長は20日、国境外ハンガリー人がハンガリー国籍を申請するにあたって、同市内にある19世紀のハンガリーの革命家コシュート・ラヨシュの生家の住所を居住地住所として使用することを提案した。この提案は、モノク市議会が決定したもの。同市長は、ハンガリー国内に居住地を持つことも、国籍保持者の権利であると説明した。しかしながら23日、ウェッツェル二重国籍法担当政府コミッショナーは、市議会や市長にそのような決定を行う権限はなく、違法であり、同一住所地に大量の国民が登録されるのは馬鹿げたことであるとモノク市の提案を一蹴した。

4. **2011年EU議長国就任に関する動き** (21日－24日)

(1) 会談会場の決定

21日、ハンガリー外務省は、2011年前半にハンガリーがEU議長国を務める期間中、閣僚会合等が行われる会場をブダペスト近郊グドゥルー市のグラシャルコヴィツ宮殿に決定した旨発表した。なお、首脳会合の会場は国会議事堂内となる予定。また、国会議事堂の正面に位置する民俗学博物館も一部会合の会場となる。さらに、会合によっては地方都市で開催されるものもあり、例えば非公式農業大臣会合はデブレツェン市で開催される見込み。

(2) EU代表部大使の交代

24日、ネーパサバツチャーグ紙は、政府がイヴァーンEU代表部大使を召還する決定を行ったと報じた。イヴァーン大使は以前よりEU議長国に向けた準備を行っていた人物であり、今年1月に大使に就任したばかりであった。イヴァーン大使の後任には、ジュルクシュ現駐クロアチア大使が就任する予定。EU議長国就任直前の大使交代につき、同紙は異例のこととして批判した。

5. ショーヨム前大統領のスロバキア訪問 (22日)

22日、ショーヨム前大統領は、スロバキアのコマルノ市を訪問し、聖イシュトヴァーンの日記念行事に出席した。ショーヨム前大統領は、昨年8月にも記念行事のため同市を訪れる予定であったが、スロバキア当局から入国を拒否されたため、断念した経緯がある。大統領職を離れ私人となったショーヨム前大統領は、今回は何の問題もなくスロバキアに入国することができた。

なお、昨年のスロバキア当局による対応をめぐり、ハンガリー政府はスロバキアを欧州司法裁判所に提訴、審査が開始されている。

6. アフガニスタンにおけるハンガリー兵士の死亡 (23日)

23日、アフガニスタン・バグラン県において、ハンガリーPRT（地域復興チーム）の車両が攻撃され、兵士1名が死亡、3名が負傷した。重傷を負った兵士もハンガリーに移送された後、9月7日に死亡した。アフガニスタンにおけるハンガリー人兵士の死者数は4名となった。

事件後の記者会見で、ヘンゲ国防相は、ハンガリーのアフガニスタン政策が変わることはない述べ、撤退や派兵規模縮小の意向がないことを表明した。

7. ハンガリー・モルドバ外相会談 (26日)

Republic of Hungary

26日、マルトニ外相はブダペストにおいてレアンカ・モルドバ副首相兼外務欧州統合相と会談した。会談では、2011年前半のハンガリーEU議長国就任やモルドバのEU加盟等につき話し合われ、マルトニ外相は、モルドバのEU加盟を政治・事務レベルで支援すること約束した。また、モルドバの内政・外政、経済協力等も議題となった。会談の最後には、モルドバのEU加盟に対するハンガリーの支援を含め二国間の協力に関して、両外相間で共同声明が署名された。

8. シェムイェーン副首相の中国訪問（28日－9月4日）

（1）訪問の概要

28日から9月4日、シェムイェーン副首相は中国を訪問した。訪問中、同副首相は、回良玉（フイ・リャンユ）副首相と会談した他、長春で開催された国際経済・環境保護会議に出席した。シェムイェーン副首相には、ラトルツァイ国会副議長も同行した。

（2）回副首相との会談

シェムイェーン副首相は、回副首相に対してハンガリーの経済政策や少数民族政策について説明した他、中国がダライ・ラマ及びバチカンとの対話を継続することをハンガリーは重要視している旨伝えた。さらに会談後、シェムイェーン副首相は、ハンガリー通信（MTI）に対して、政府は中国との関係強化を目指しており、ファゼカシュ地方開発相も近々訪中予定である他、オルバーン首相も今年中の訪中を計画している旨述べた。

（3）長春訪問

吉林省長春を訪問したシェムイェーン副首相は、自動車工場や鉄道車両工場を見学し、国際経済・環境保護会議に出席した。同会議でシェムイェーン副首相は、中国からのより多くの投資を期待する旨発言した。また、同副首相はMTIに対して、吉林省とフェイェール県との間にはすでに関係が構築されており、吉林省の共産党幹部がハンガリーに招待されていることを明らかにした。

9. ハンガリー大使会議の開催（30日－31日）

（1）30－31日、ブダペストにおいて各国に駐在する大使が一堂に会する大使会議が開催され、オルバーン首相、マルトニ外相を始めとする要人が外交方針について演説を行った。また、同時期にハンガリー訪問中のストゥブ・フィンランド外相がゲスト・スピーカーとして招かれ出席した。

(2) オルバーン首相は演説の中で、ハンガリーには「勇気ある」「主導的な」外交が必要であるとし、その実例として7月のIMFとの協議中断を挙げた。また、中欧地域で最も競争力のある国になることが政府の第一の目標であるとし、経済的に成功することが外交上の課題であるとの考えを披露した。

(3) マルトニ外相は、EUの競争力強化、V4協力、西バルカン地域の安定、クロアチアのEU加盟等を重要事項として挙げ、ハンガリー外交の目標は、自国の威信と影響力を取り戻し、国益を実現することであると述べ、ハンガリーに対する評価を改善させる必要があると強調した。

Ⅲ. 経 済

1. **ハンガリーの就労率はEU内で下から2番目** (4日)

EU統計局 (Eurostat) は、2009年のハンガリーの15歳～64歳の就労率は55.4%で、EU27ヶ国中、マルタの54.9%に次いで下から2番目であると発表した。スロバキアは60.2%、チェコは65.4%、ポーランドは59.3%、ルーマニアは58.6%で、ハンガリーは地域では最低であった。なお、EU27か国平均は64.6%だった。

2. **マトルチ国家経済相、2011年の財政赤字目標に固執しない** (5日)

マトルチ国家経済相は、テレビのインタビューで、ハンガリーは2011年の財政赤字を是が非でもGDP比3%未満にすることに拘るわけではない、他のEU諸国の財政赤字が7%近辺であり、スロバキアは3年かけてようやく財政赤字を3%未満としようとしている中、遠くにいる機関や金融プロフェッショナルによる試験に合格するためだけに、我々は2011年の財政赤字を2.8%にすることはないと述べた。

3. **6月の鉱工業生産は前年同月比+12.6% (調整後) (速報)** (5日)

中央統計局 (KSH) は、速報として6月の鉱工業生産が前年同月比15.2% (調整前)、12.6 (調整後) の増加となったと発表した。5月は13.8% (調整前・後共) のプラスだった。貯蓄銀行のアナリストは11.5%、MKB銀行のアナリストは9% (共に調整前) のプラスを予想していたため、アナリスト

予想を大きく上回る結果となった。

4. **6月の貿易黒字は567百万ユーロ（速報）**（6日）

中央統計局は、速報として6月の貿易黒字が567百万ユーロとなったと発表した。2009年2月以降貿易黒字が継続しており、2010年1月～6月までの貿易黒字は2,812百万ユーロで前年同期の1,729百万ユーロより大幅に増加した。

5. **国家経済省、2010年のGDP予測を0.6%成長に上方修正**（10日）

国家経済省は、本年3月に前政権のもとで財務省が行った2010年のGDP予測を-0.2%から+0.6%へ上方修正した。この予測見直しの理由として、第1四半期のGDPが予想以上に良かったこと、ハンガリーの主要輸出市場の成長が予想以上に見込まれることを挙げている。

6. **2011年には数十億ユーロの外貨建国債を発行**（11日）

国家債務管理局（AKK）のボーベリー副局長は、2011年には数十億ユーロの外貨建国債の発行を行うことになるだろうとロイター社に対して述べた。ハンガリーは2月に20億ドルの国債を発行しており、2010年はこれ以外の外貨建国債の発行予定はない。

7. **7月の中央銀行金融委員会会合の内容が明らかに**（11日）

7月19日に開催された中央銀行の金融委員会会合において基準金利据え置きを決定した際の議事録が公開された。同会合では、7月17日のIMF・EU代表团との交渉延期は大きな検討事項であった。議事録によれば、金融委員会委員は、交渉延期はハンガリー経済に関するリスク認識に逆の影響を与え、この傾向がどの程度続くかを判断するには時間が必要であると感じていた。また、国際機関からの支援の合意が取り付けられない場合、国家の資金調達能力は低下するという考えで意見がまとまっていた。

8. **7月の消費者物価は前年より4%上昇**（11日）

中央統計局は、7月の消費者物価指数が6月の前年同月比5.3%から低下し、4.0%となったと発表した。2009年7月にVATが5%引上げられていたことから、今回の低下は、広く予想されていたが、アナリスト予想の3.8%より若干高い数値となった。その主な理由としては、洪水により季節食品が高騰したことが挙げられている。

9. **ローン返済条件変更の効果は限定的** (12日)

銀行による返済条件変更にもかかわらず、返済期限を守れない顧客の割合は増加していることが、7月に中央銀行が商業銀行の貸付担当者を対象に行った調査で判明した。この調査によると、2010年第1四半期から第2四半期にかけて、返済条件変更が行われたローンの数は企業向けが3.5%から4.4%に、リテール向けが5.2%から6.1%に、それぞれ増加した。同時に、返済を滞らせた債務者は20%から25%に増加した。うち、大企業は3%から6%に、中小企業は9%から18%にそれぞれ増加した。

10. **予想以上のGDP成長は産業部門の輸出増が原因** (13日)

中央統計局の発表した最新のデータによると、第2四半期のGDPは前年同月比1.0% (暦調整前)、0.8% (暦調整後) の増加となった。これについてエルステ銀行のアナリストは、これは輸出向け工業生産の回復及び在庫増によるものとした。また、OTP銀行のアナリストは、これはハンガリー経済の欧州他国経済に対する依存度の高さを示しているが、今後欧州全土にわたって財政の引締めが行われると見込まれることから、ハンガリーも経済成長の見通しは不透明であると述べた。

11. **国家開発省次官：ガス価格の合意は9月中旬** (16日)

国家開発省のヴォルネル次官は、ガス価格についての同省とガス会社との合意は9月中旬になる可能性が高いとした。なお、経済紙の *Vilaggazdasag* は、ガス価格の凍結措置は年末まで維持される可能性もあると報じている。政府機関による価格統制下にある一般家庭、小規模事業者及び公的機関向け業者 (ユニバーサル・サービス・プロバイダ) が提供するガス・電気価格は7月に凍結され、政府と業者との価格交渉が妥結するまで維持されることとなっている。

12. **政府はナブッコ・サウスストリームの間方にコミット** (16日)

日刊紙の「ネープサバッチャーグ」は、国家開発省担当者が、エネルギーの安定供給確保のため現政権もナブッコ・パイプライン及びサウスストリーム・パイプラインの間方にコミットすると話したと報道した。EUが推進するナブッコは中央アジアのガスを欧州に運ぶルートであり、ロシアが主導するサウスストリームはウクライナを回避してロシアのガスを欧州に運ぶもの。前政権は、両方のプロジェクトへの支持を表明していた。

13. **一般政府純借入れ、7月までの1年間でGDP比4.8% (速報)** (16日)

中央銀行の発表した速報値によると、ハンガリーの一般政府純借入れは、7月末までの1年間でGDP比4.8%となった。3月までの1年間では4.4%だった。第2四半期末におけるハンガリーの一般政府債務残高は、額面でGDP比82.9%となり、第1四半期末の数値(79.6%)と比べて上昇した。

14. **ハンガリーはいずれIMFが必要になる** (16日)

IMFにおける対ハンガリー交渉団長のローゼンバーグ氏は、フランス日刊紙によるインタビューの中で、ハンガリーにおいて2011年は2010年を遙かに上回る資金需要が見込まれるため、現在同国がIMFを必要としていなくても、この状況は2011年には変化するだろうとした。同氏はハンガリーにおける80%近い政府債務残高は新興国中で最悪であり、その経済は非常にもろい状態にあるとした。ハンガリーがIMF等との間で合意したスタンバイ取極に関する交渉は7月に中断、その数日後にオルバーン首相は、IMFとの合意は10月に失効するため、長期的な課題についてIMFとの交渉を継続する必要はないと述べていた。

15. **財政委員会、2010年の財政赤字をGDP比4%と予想** (18日)

国家財政を評価する独立機関である財政委員会は、2010年の財政赤字が、政府の目標値である3.8%を僅かに上回る4.0%となるとの分析を発表した。同理事会は、民間の年金基金から公的年金への切替え(約600億フォリント)等を含め、約3,600億フォリント程度の一時的歳入増が恒常的な赤字を相殺する可能性があるため、目標値に近づくことが可能だが、2010年の赤字削

減目標達成には政府支出の厳しいコントロールが必要であるとしている。

16. **6月の総賃金は前年比0.5%の上昇** (19日)

中央統計局は、ハンガリーにおける6月の総賃金が前年比0.5%上昇（民間部門+2.9%、公的部門-4.5%）したと発表した。5月は+0.8%だった。民間部門の賃金は、2004年以来最も遅いペースでの上昇となっている。6月の純賃金は同7.5%の上昇（民間部門+8.4%、公的部門+5.8%）であった。なお、被雇用者数は前年比2.8%上昇した。

僅かな賃金上昇となった点について貯蓄銀行のアナリストは、2009年に多く行われた解雇は主にブルーカラー労働者を対象としていたため平均賃金の上昇率が高かったが、現在は逆に低賃金労働者が新規雇用されているためその上昇率が低く抑えられているとした。

17. **悪天候により果物・野菜の収穫が3分の1減少** (19日)

ハンガリー果実・野菜協議会によると、2010年の果実と野菜の収穫量は、2009年から約3割減、過去10年平均から4割～5割減となる見込みである。特にサクランボが約80%減、サワーチェリーが約40%減、モモ、スモモ、プラムが約30%減となっている。リンゴについても2009年の約50万トンから2010年は約30万トンへ減少する見込みである。

また、地方開発省の発表によると、2010年の小麦の収穫量は2009年から約16%減、過去5年平均から約21%減となる見込みであり、トウモロコシの収穫量は過去5年平均と同水準となる見込みである。

18. **中央銀行、4ヶ月連続で基準金利を5.25%に据え置き** (23日)

中央銀行の金融委員会は、事前の市場予測どおり、基準金利を5.25%に据え置いた。基準金利はこれで4ヶ月連続の据置きとなった。シモル総裁は会合後の記者会見で、据置きのほかにも25bp引下げと25bp引上げの選択肢が検討されたこと、決定は長時間に渡って議論が行われた末の際どいものであったことを明らかにした。また、インフレリスクがこのまま継続する場合またはハンガリー経済へのリスク認識が長期的に増大する場合は、利上げの可能性もあり得るとした。

19. **中央銀行、インフレ報告書で財政赤字をGDP比4.3%と予測** (23日)

中央銀行は四半期インフレ報告書において、2010年のGDP成長が0.9%、インフレ率(通年平均)が4.7%になるとの予測を発表した。2010年の財政赤字については、政府の目標値であるGDP比3.8%より高い4.3%と予測されている。また、2011年のGDP成長率については2.8%と予測されており、6月上旬に発表された前回の報告書における3.2%から引き下げられている。シモル総裁は、銀行税による約2,000億フォリントの金融機関への重い負担は、GDP成長率を低く留める理由の一つであると述べた。

20. **GKI社、8月の消費者・企業信頼感指数は改善** (23日)

GKI社によれば、8月の消費者・企業信頼感指数は6月・7月の-12.9ポイントから-9.6ポイントへと上昇した。消費者・企業信頼感指数は、2009年4月に-46.2ポイントにまで悪化していたが、その後徐々に改善してきている。

21. **国家経済省、IMFとの新たな取極は不要との見解** (25日)

国家経済省は、この秋に再開する予定のIMFとの協議において、新たな融資の取極に関する協議を行わないことを明らかにした。政府は、秋の協議は、IMFが加盟国と行う通常の政策協議であるとしている。また、政府の財政赤字目標(GDP比3.8%)については、変更ないとした。

オルバーン首相は、7月のIMF・EUとの協議が中断して以降、長期的な課題についてIMFと交渉する必要はないと述べるなど、IMFと距離を置く発言を繰り返していた。

22. **国家開発相、政府はハンガリー大企業のハンガリー資本比率維持に尽力** (31日)

フェツレギ国家開発相は外交関係の会合において、政府はハンガリー資本がマジョリティを占める大企業についてハンガリー資本比率の維持に尽力すると述べた。また、国家開発省が中小企業の利益にかなう競争入札制度を作るための行動計画を策定中であると述べた。

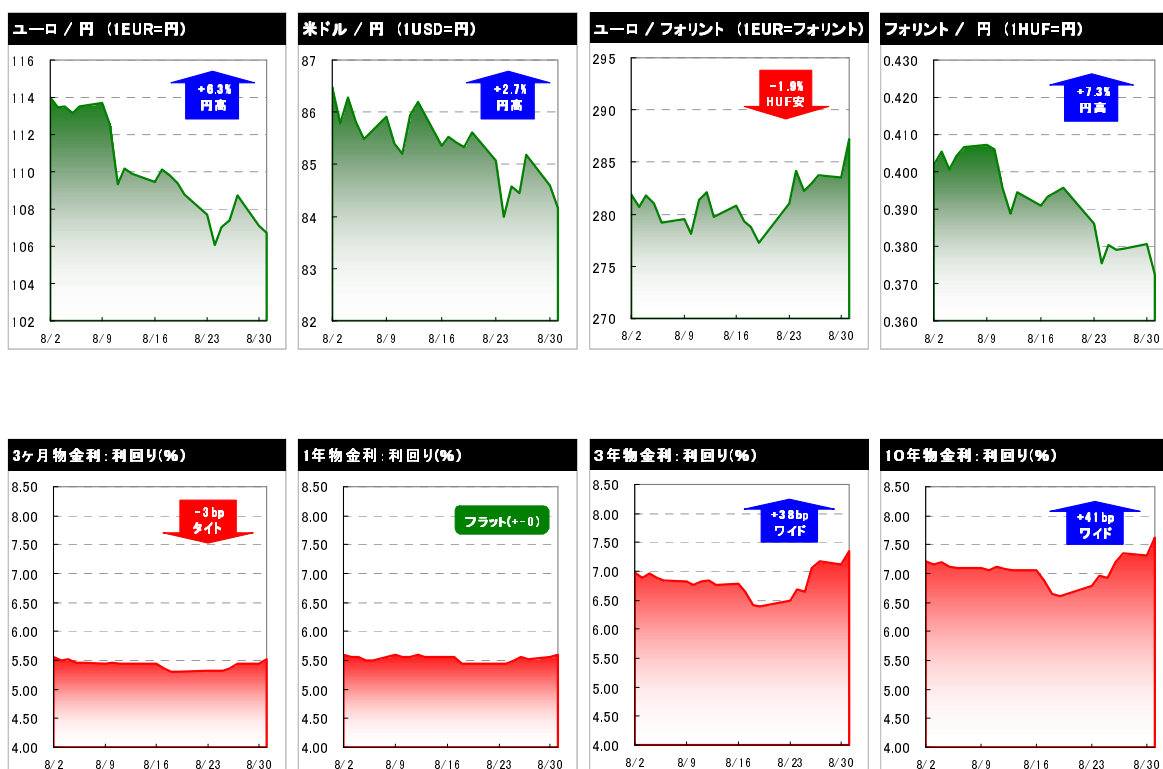
エネルギー政策については、エネルギー源の多様化や地域のエネルギーインフラの重要性に着目し、エネルギーの輸入依存度を下げるために代替エネルギー

Republic of Hungary

一源及び再生可能エネルギー源に対しインセンティブを与えることとしたいと述べた。

IV. その他

《8月の為替・金利動向》



《8月の選挙・支持政党に関する世論調査》(注)

(1) 支持政党の変遷 (確実に投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党)

	(6月)	(7月)	(8月)
(与党)			
フィデス (Fidesz) / キリスト教民主国民党 (KDNP)	63%	61%	61%
(野党)			
社会党 (MSZP)	18%	18%	18%
ヨッビク (Jobbik)	12%	14%	15%
新しい政治の形 (LMP)	5%	4%	4%

(2) 質問事項：仮に今週日曜日に総選挙があるとすればどの党に投票するか (質問者全員よりの回答)。

(与党)	
フィデス (Fidesz) / キリスト教民主国民党 (KDNP)	35%
(野党)	
社会党 (MSZP)	12%
ヨッビク (Jobbik)	8%
新しい政治の形 (LMP)	3%
(国会外政党)	
ハンガリー民主フォーラム (MDF)	1%
その他政党	1%
わからない、投票しない	40%

(注) ソンダ・イプソス社調べ (8月10日ー17日データ収集、サンプル数：18歳以上の市民1,500人)。

Republic of Hungary

2010年8月の出来事

日	内政	日	外政
1	・F1フンガロリング最終日	4	・シエムイェーン副首相、コプト正教会教皇シエヌーダ 3世と面会(於カイロ)
2	・各地でロマ・ホロコースト追悼記念式典開催	5	・【外相】訪洪したシュワルツェンベルグ・チェコ外相と会談
3	・【フィデス】全国市区町村長候補を最終決定	13	・【大統領】ユースオリンピックのためシンガポールを訪問
4	・アルショーエルシで車両検問中の警官と市民の計2名が射殺される。被疑者は逃走後に自殺	14	・【首相】セルビア・ヴォイヴォディナ地方訪問
5	・【大統領】ショーヨム大統領任期満了	17	・【ヨツビク】コヴァーチ欧州議会議員、靖国神社参拝
6	・【大統領】シュミット新大統領就任式典 ・【国会】レジャーク国会副議長、メディア関連法案等に調印し、シュミット新大統領へ提出。クヴェール新国会議長就任	18	・NATO安全保障新規課題局(ESCD)次長にイクローディ・ガーボル前外務専門次官が就任
10	・【大統領】メディア法等各種法案に署名 ・【首相】国家メディア報道局長にサライ氏任命	20	・ネーメト外務次官、トランシルバニア地方にて「ハンガリーの日」に出席
11-16	・第18回インゲト・フェスティバル開催	21	・国境外ハンガリー人に対する二重国籍付与法発効
12	・【カジノ】ジュルチャー二元首相、バイナイ前首相、ブダイ首相付コミッショナーに対し訴訟提起。LMP、国会カジノ問題調査委員会の設置提案 ・【ガールダ】スキャンダルでキシュ団長辞任	22	・外務省、EU議長国期間中の閣僚会合会場をグドゥルーに決定と発表
13	・【LMP】ブダペスト市長選プログラムを発表 ・【カジノ】ヨツビク、国会カジノ問題調査委員会設置案に賛同	23	・ショーヨム前大統領、スロバキア・コマルノの聖イシュトヴァーンの日式典に出席
16	・【ガールダ】イナーンチ新団長を選出	24	・アフガニスタンでハンガリー兵士1名が死亡、3名負傷
17	・【政府】建国記念日叙勲の延期を発表	25	・イヴァーンEU代表部大使の召還が報道される
20	・建国記念日。各地で記念式典開催 ・【ガールダ】イナーンチ団長、身柄拘束される	26	・【首相】キリスト教立法者国際会議出席のためローマ訪問
26	・ブダペスト市議会最終日。市長による総括	28-9/4	・イラク訓練生に対するNATO訓練コースがセンテンドレで開始
30	・【政府】ナヴラチチ行政司法相、ブダペスト及び各県の行政局長を任命 ・【地方選】ヨツビク、LMPの推薦人カード買収疑惑に関し、警察に捜査を依頼 ・アフガニスタンで死亡した故パップネー・アブラハム・ユデイト曹長の軍葬	30-31	・【外相】訪洪したレアンカ・モルドバ外相と会談 ・シエムイェーン副首相、中国訪問 ・ハンガリー大使会議の開催
31	・【カジノ】タートライ国家資産運営会社元代表他1名の身柄が拘束される		

Embassy of Japan in Hungary

1125 Budapest Zalai ut 7. Hungary
TEL :+36-(06)-1-398-3100

E-Mail

政務関係 : political@japanembassy.hu

E-Mail

経済関係 : economic@japanembassy.hu

E-Mail

広報文化関係:culture@japanembassy.hu

E-Mail

領事関係 : consul@japanembassy.hu